

ホームヘルパー(訪問介護員)が同行するツアーや、旅館へのヘルパー派遣など、高齢者の旅行を支援するサービスが増えている。専門家の手を借りることで活動の幅が広がると、人気のようだ。

東京都内の高齢者施設で暮らす戸張八重さん(86)は10月下旬、都内に住む息子の滝村淳三さん(54)、2人の孫と一緒に山梨県の石和温泉を訪れた。脑梗塞で手足にまひが残り、一人では温泉に入れない。

そこで利用したのが、JTB(東京都)が4月に始めた入浴介助サービス。石和温泉のほか、静岡県の熱海温泉、伊東温泉にある計8軒のホテルにホームヘルパー2級以上の資格者を派遣、大浴場に入る手助けをする。料金は通常の宿泊料のほか、介助料金がヘルパー1人8000円、2人だと1万2000円かかる。

戸張さんが泊まったのは「石和びゅーほてる」(山梨県笛吹市)。2人のヘルパーが、大浴場への移動や着替えを介助、体も洗ってくれた。戸張さんは、露天風呂に入る

## 高齢者の旅行にヘルパー



①ヘルパーに付き添われ、三重県内を旅行する80代の女性。普段は千葉県内の高齢者施設で暮らしている(「SPI あ・える倶楽部」提供)  
②大浴場の外に設けられた露天風呂も、ヘルパーの介助でゆっくり楽しめる(山梨県の石和温泉で)

### 移動や入浴介助 養成講座も

「ああ、気持ちがいいです」と顔をほころばせた。淳三さんは「外出を嫌がるようになり心配していたが、旅行を楽しみにするようになった」。

観光庁の2009年度まとめによると、宿泊を伴う観光旅行の年間の回数は、20代から50代までは1・8回未満なのに対し、60歳以上は2・11回。高齢者の旅行需要は大きい。北海道北見市の「滝

どの理由で、旅行をあきらめたい人も多いとみられる。JTBでは、入浴介助サービスのほか、ホームヘルパー2級以上の資格者が同行し、移動を介助する国内外のツアーも提供。一人での参加も可能だ。「ツアーは9月からコースを増やし、利用者も2割ほど増える予想」と同社。

介護旅行専門会社「SPI あ・える倶楽部」(東京都渋谷区)は、同検定で認定されたトラベルヘルパー約50人を登録。半日の外出から海外旅行まで、ヘルパーが同行するプランを介護状況などを考慮して、提供している。料金は本人とヘルパーの旅行代金などのほか、介助料金が介護度別で3段階に設定され、要介護度3〜5で1日2万6250円。



養成講座を開設。昨年から検定試験も実施している。

同協会の篠塚恭一理事長は「旅行の予定を入れることで生きがいを感じ、リハビリに前向きに取り組むようになるなど、介護予防の効果も期待できる」と話す。

ただ、こうした旅行は、旅行先の国や地域によって追加料金が発生することもある。主治医の承諾が必要などの条件が付く場合もあり、申し込みの際に確認が必要だ。